



NEW YORK



HONG KONG



ROME

LONDON



TOKYO



最新コラボはブルー・アンド・ジョイ。 フェンディとデザインの深い関係

2008年にデザイン・マイアミの公式スポンサーとなって以降、ファッション性とクラフツマンシップあふれる独自の表現でデザイン&アート界に話題をふりまいてきたフェンディ。これまでコラボレートしてきたデザイナーには、ナチョカーボネルやスタジオフォルマファンタズマといった気鋭の若手から、カンパ兄弟やマリア・ベルゲイといった輝々たる顔ぶれが並び、さらにショップのインテリアはグエナエル・ニコラが手がけている。そうした流れを生んだのは、フェンディ家3代目でクリエイティブ・ディレクターのシルヴィア・フェンディ。幼いころからアートに囲まれて育ち、鋭い感性と審美眼をもった彼女は若手アーティストやデザイナーをサポートしている。彼女がデザインしたバッグ「バゲット」を使ったアートプロジェクトも盛んだ。

現在、そんなフェンディのウィンドウを飾るのがブルー・アンド・ジョイのインスタレーション。アルミの「紙飛行機」がニューヨークやパリ、東京と、ショップごとのディスプレイで世界を飛び回る。「突然5000もの紙飛行機を作ることになり、スタジオは24時間フル稼働だったよ! 金属製の紙飛行機という矛盾を孕んだオブジェは、子ども時代の象徴でもある。いつまでも空を舞う紙飛行機にワクワクしてもらえるとうれし」と言う彼ら。松屋銀座のウィンドウ設置のために滞在した東京については、「現代のテクノロジーと伝統のぶつかり合いに目がくらんだ」と語る。「ブルー」と「ジョイ」が象徴するように、矛盾やコントラストをひとつのテーマとする彼らのアートは、フェンディのDNAである「デュアリズム」にも通じている。



1 アルミ製の「紙飛行機」を使ったインスタレーションは、ブルー・アンド・ジョイの代表作のひとつ。「同じ方向を向かせることができないからこそ、どこへでも行くことができる」というメッセージが込められている。彼らが10年前に作ったコミックのキャラクター、ブルーとジョイがいつも紙飛行機に乗って旅していたことから生まれた。2008年に初めて立体作品となり、近年ではミラノのトリエンナーレミュージアムや東京ビエンナーレへも飾りつけられた。2、3 ひとつずつ手作りされる紙飛行機。アルミシートをカットして飛行機を折り、カラーズプレーを吹きかけている。



Blue and Joy

イタリア出身のファビオ・ラ・ファウチ(左)とダニエル・シガロットが2005年に結成したデュオ。ベルリンにスタジオ「ラ・ビッフェリア」を構える。キャンディやボタン、コインなど、多彩なマテリアルを使ったストリートスタイルのアートワークを世界中で発表している。

<http://blueandjoy.com/>